

## 口永良部島の火山活動解説資料

福岡管区气象台  
地域火山監視・警報センター  
鹿児島地方气象台

＜噴火警戒レベル3（入山規制）が継続＞

本日、鹿児島県の協力により実施した上空からの観測では、噴火に伴う火砕流<sup>1)</sup>の痕跡が新岳火口から北西側に約1.9km、南西側に約1.6km、東側に約1kmまで達していることを確認しました。また、大きな噴石<sup>2)</sup>が新岳火口から概ね1km飛散し、南西側では最大で約1.8km飛散していることを確認しました。

### 【防災上の警戒事項等】

新岳火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石<sup>2)</sup>が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

### ○ 活動概況

#### ・噴煙など表面現象の状況（図1～5）

新岳火口では本日（17日）09時19分に火砕流を伴う噴火が発生しました。その後、噴火は15時27分頃まで継続し、現在は停止しています。

本日実施した現地調査及び、鹿児島県の協力により実施した上空からの赤外熱映像装置<sup>3)</sup>による観測では、噴火に伴う火砕流の痕跡が新岳火口から北西側に約1.9km、南西側に約1.6km、東側に約1kmまで達していることを確認しました。大きな噴石は、新岳火口から概ね1km飛散し、南西側では最大で約1.8km飛散していることを確認しました。

#### ・降灰の状況（図6～7）

本日実施した現地調査及び聞き取り調査では、鹿児島県屋久島町小瀬田の一部で路面が見えにくくなる程のやや多量の降灰を確認するなど、鹿児島県屋久島町及び南種子町の一部で降灰が確認されました。

---

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（[https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『基盤地図情報』『基盤地図情報（数値標高モデル）』『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。

- 1) 火砕流とは、火山灰や岩塊、火山ガスや空気が一体となって急速に山体を流下する現象です。火砕流の速度は時速数十kmから時速百km以上、温度は数百℃にも達することがあります。
- 2) 噴石については、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中「大きな噴石」とは「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とはそれより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことです。
- 3) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

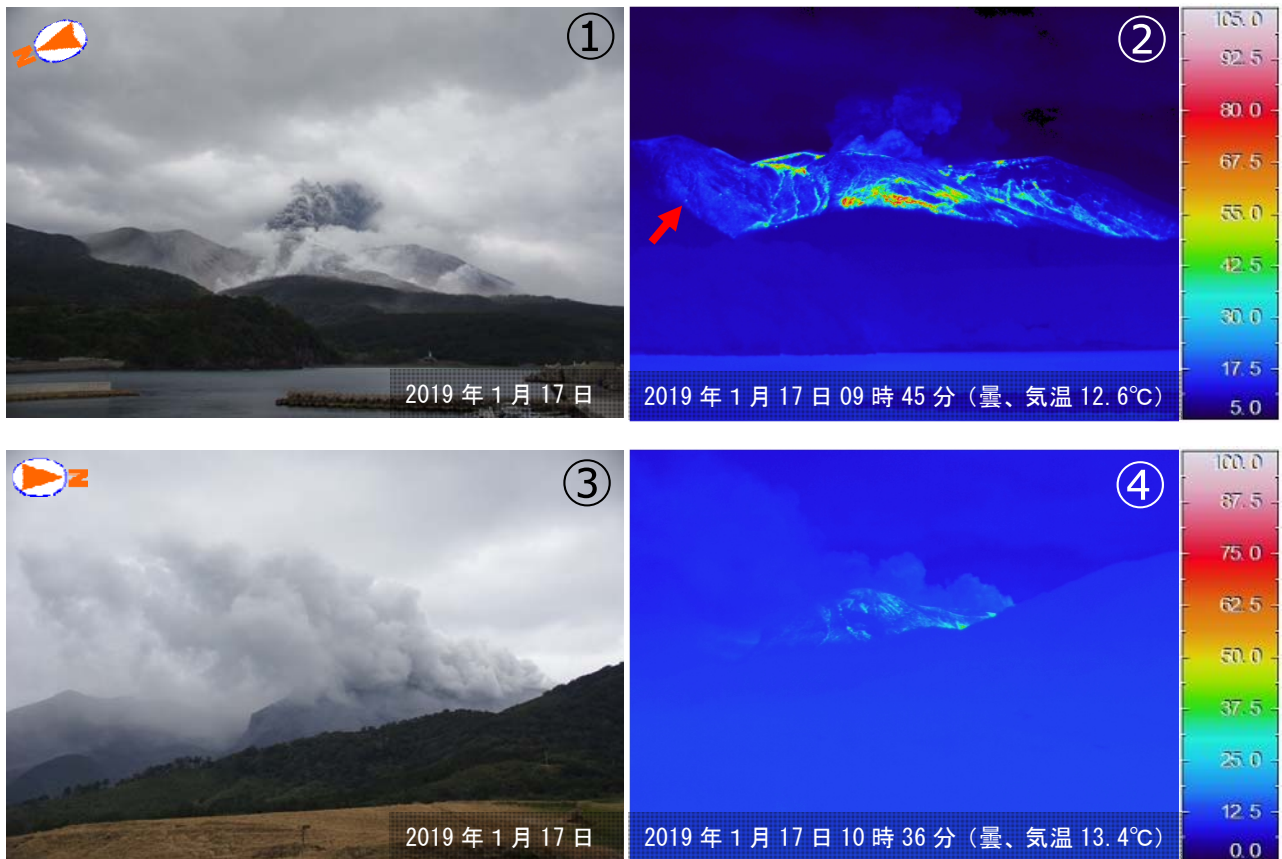


図1 口永良部島 17日09時19分に発生した噴火の様子

(①②：本村から撮影、③④：湯向から撮影)

- ・17日09時19分に新岳火口で噴火が発生し、噴煙が火口縁上500mまで上がり雲に入りました。
- ・赤外熱映像装置による観測では、火砕流及び大きな噴石（赤矢印）の飛散による熱異常域を確認しました。

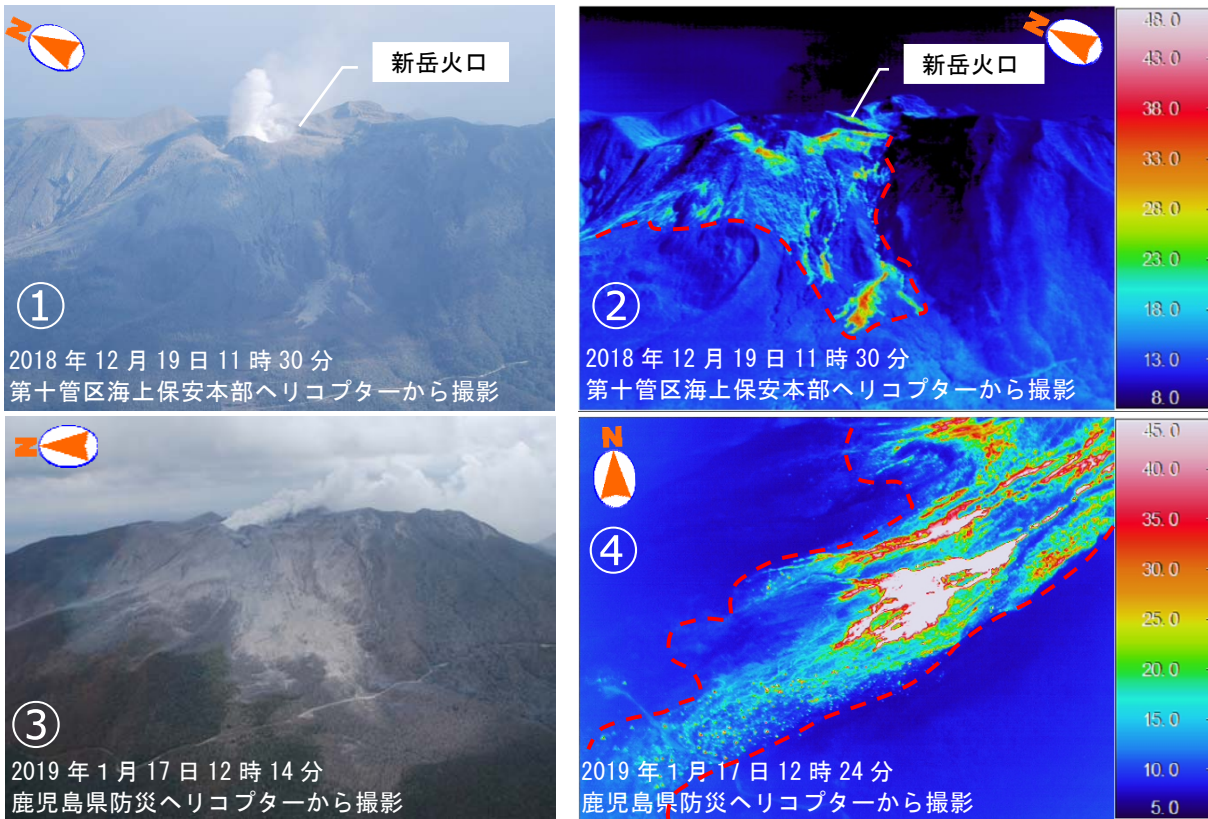


図2 口永良部島 南西側から撮影した新岳火口及び西側斜面の状況（2019年1月17日）

- ・大きな噴石が新岳火口から概ね1km飛散し、南西側では最大で約1.8km飛散していることを確認しました。

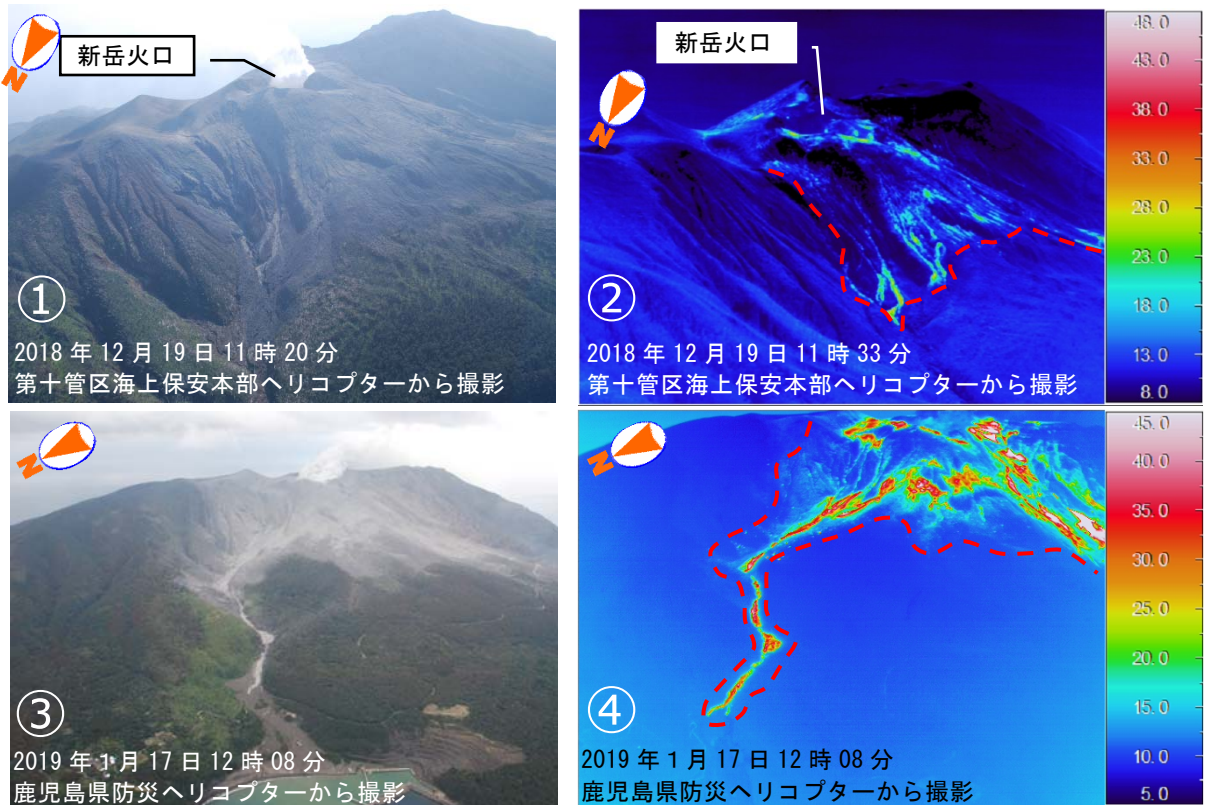


図3 口永良部島 北西側から撮影した新岳火口及び西側斜面の状況（2019年1月17日）

- ・新岳火口から火山灰を含んだ噴煙が上がっているのを確認しました。
- ・噴火に伴う火砕流の痕跡（赤破線）が新岳火口から北西側に約1.9km、南西側に約1.6kmまで達していることを確認しました。

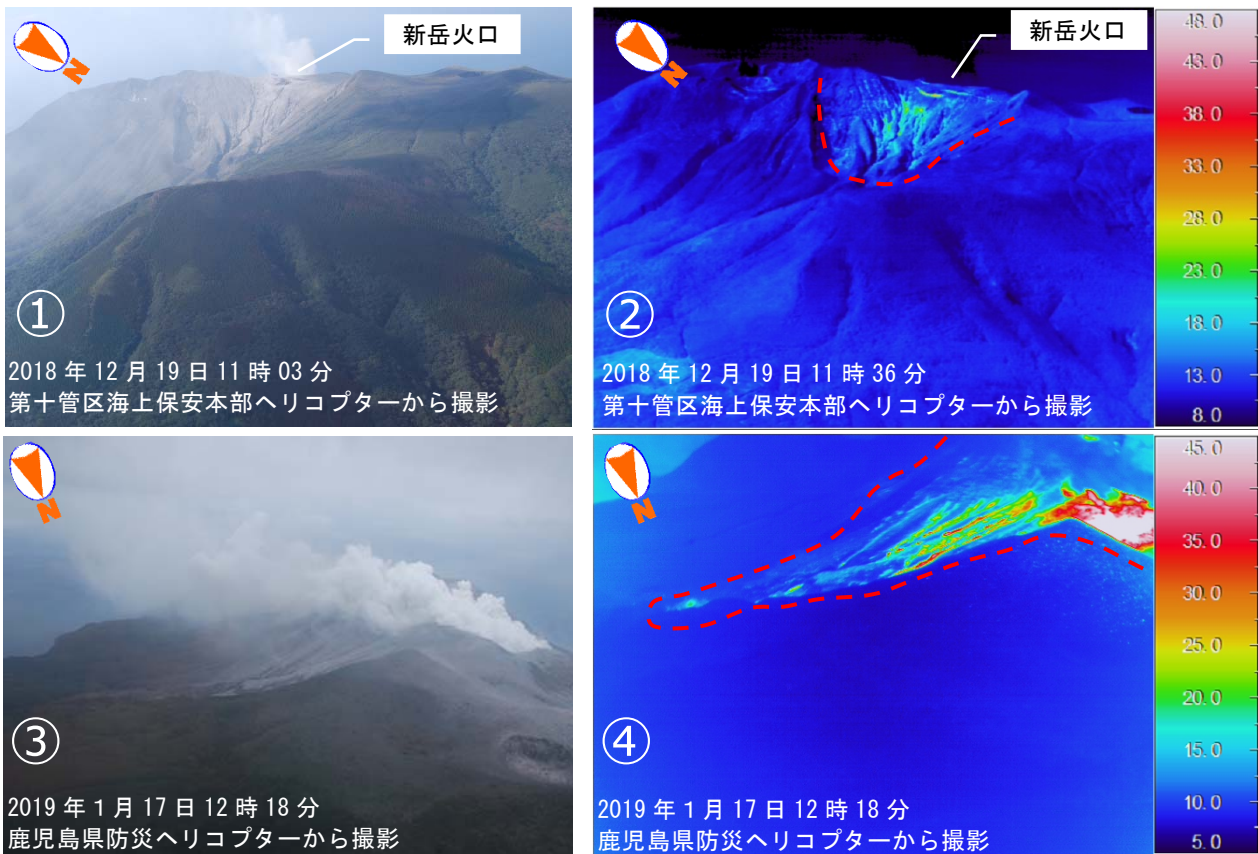


図4 口永良部島 北東側から撮影した新岳火口及び東側斜面の状況（2019年1月17日）

- ・新岳火口から火山灰を含む噴煙が上がっているのを確認しました。
- ・噴火に伴う火砕流の痕跡（赤破線）が新岳火口から東側に約1kmまで達していることを確認しました。

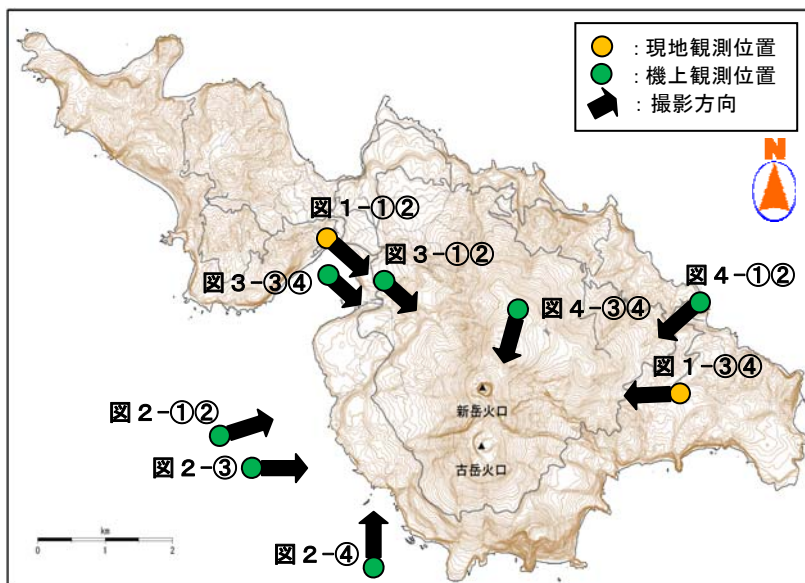


図5 口永良部島 観測位置及び撮影方向

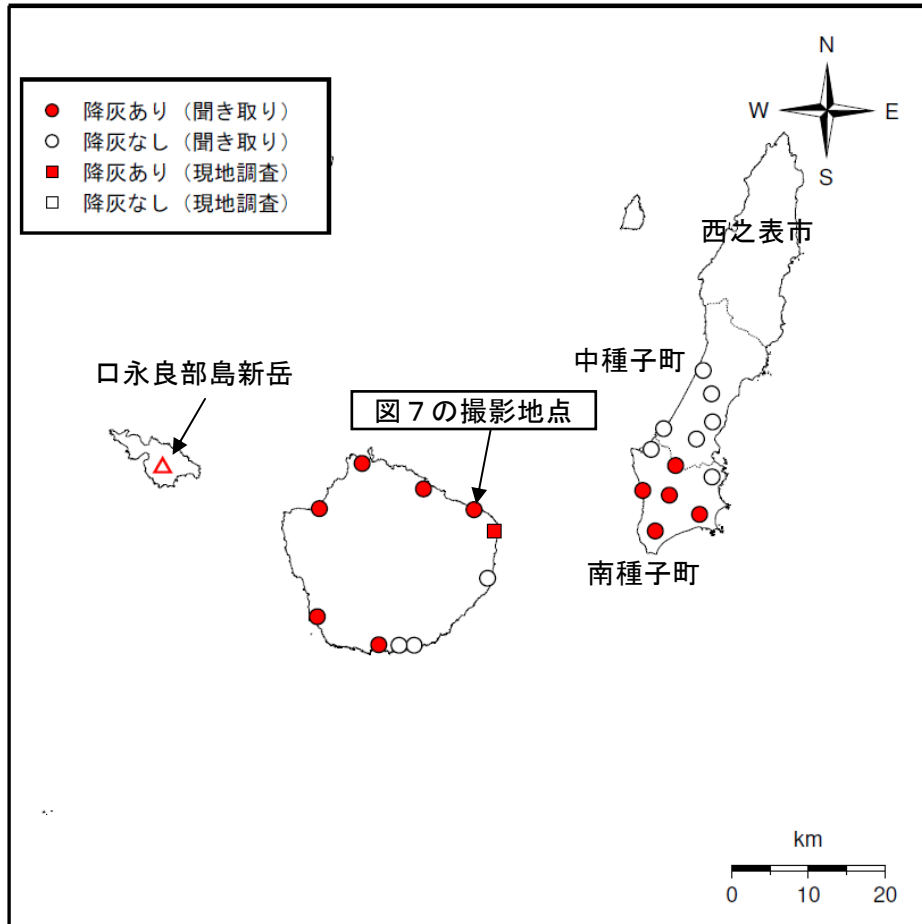


図6 口永良部島 降灰分布図 (2019年1月17日)

現地調査及び聞き取り調査では、鹿児島県屋久島町及び南種子町の一部で降灰が確認されました。



2019年1月17日13時34分 屋久島町小瀬田

図7 口永良部島の噴火に伴う降灰の状況 (2019年1月17日：屋久島町小瀬田)

屋久島町小瀬田で、路面が見えにくくなる程のやや多量の降灰を確認しました。